

津島の柳本さん 女子モーグル世界4位

「3年後、ミラノ五輪出たい」

津島市在住の柳本理乃さん（愛知ダイハツ）が今季、フリースタイルスキー・女子モーグルの世界選手権で四位に入り、海外で飛躍した。二年前に脳振とうを経験し、北京五輪にあと一歩届かず涙をのんだ二十二歳。「三年後のミラノ五輪に出たい」と雪辱に意欲を燃やす。

（伊勢村優樹）

市長に飛躍誓う 脳振とう、不調乗り越え

モーグルは、雪面に規則的なこぶが配置された急斜面のコースを滑走する。ターンや、ジャンプしながら組み合わせた規定の技を空中で行う「エア」の技術に加え、スピードを競うハードな競技。日本でもなじみが深く、上村愛子さんが長野大会から五輪で五大会連続入賞するなど活躍した。

津島市東小学校の一年時からモーグルを始めた。藤浪中や清林館高、愛工大へ通いながら、県内の東海フリースタイルスキークラブで力をつけ、ナショナルチーム入り。急成長した今季はワールドカップ（W杯）で十一戦全てで十位以内に入り、最高は米国大会の四位。世界選手権のデュアルモーグル種目でも七位と日本勢で最高成績を残した。

ただ今季が始まる当初は、再び雪面上がる恐怖も抱えていた。北京五輪を控えた二〇二二年十二月、フランスでの大会前の練習で転倒。脳振とうを起し、その後は万全な状態で臨めず、北京五輪の代表入りを逃した。けがが良くなっても「エアの前になると頭が真っ白になった」「恐怖心が治らないかも」と考え、技が思うように出せ

日比市長に世界選手権での活躍を報告した柳本さん（津島市役所で）



ず、心の回復に時間がかかった。それでも不安を払拭する狙いを込めて、改めて技術を磨き、一年後に脳振とうを経験した同じ舞台で、上位進出を果たした。これが自信となり、その後の活躍につながったという。

欧州や北米などで開かれた今季のW杯を終え、二十四日には津島市役所に日比一昭市長を表敬訪問。「今年には安定した順位で目標を達成し、成長を感じるシーズンだった」と振り返った。目標は幼い頃から憧れていた上村さんのように五輪で活躍すること。日比市長から「さまざま大変な思いを乗り越えての結果ですばらしい。さらに上を目指して」と激励されると、「まずは来季、これまでと少して逃してきたW杯の表彰台に上りたい」とレベ